古文単語 現代語訳の誤りを直す ③

高校／正しく訳した古語に迷わず、誤りを1か所に絞る

名前 _____

日付 _____

各問に原文と訳が1つずつあり、訳には古語が何語も訳してあります。
意味の取り違えは1か所だけ。誤りが無い訳も1つあり、そのときは全部の古語が正しい。
訳から誤りの語句だけを短く書き抜いて「誤りの語句」の欄に、正しい訳を「正しい訳」の欄に書く。
誤りが無ければ「誤りの語句」と「原因」の欄に「なし」と書く（「正しい訳」は空ける）。
原因は「原因」の欄に記号で答える。ア＝現代語の意味のまま訳した　イ＝その語の別の意味を選んだ

1 原文　……ゆゆしき身にはべれば、かくておはしますも、忌ま忌ましうかたじけなくなむ」とのたまふ。（源氏物語・桐壺）

訳　……すばらしい身でございますので、このようにいらっしゃるのも、縁起が悪く恐れ多い」とおっしゃる。

誤りの語句	正しい訳	原因

2 原文　かぐや姫のいふやう、「親ののたまふことを、ひたぶるにいなび申さんことのいとほしさに、得難きものを、かくあさましくもてくること」をねたく思ひ、翁は閨の内しつらひなどす。（竹取物語）

訳　かぐや姫が言うには、「親がおっしゃることを、一途にお断り申し上げるのが気の毒で、手に入れにくい物を、このように驚くほど持ってくること」をねたましく思い、翁は寝室の中の準備などをする。

誤りの語句	正しい訳	原因

3 原文　……唐めいたる装ひはうるはしうこそありけめ、なつかしううらうたげなりしを思し出づるに、花鳥の色にも音にもよそふべき方ぞなき。（源氏物語・桐壺）

訳　……（楊貴妃の）唐風の装いは親しかっただろうが、（更衣の）親しみやすくかわいらしかったご様子を思い出されると、花の色にも鳥の声にもなぞらえるすべがない。

誤りの語句	正しい訳	原因

4 原文　……なべてほだし多かる人の、よろづに諂ひ、望み深きを見て、無下に思ひくたすは、僻事なり。（徒然草・第百四十二段）

訳　……一般に係累の多い人が、何事にもへつらい、望みの深いのを見て、むやみに見下すのは、まちがいである。

誤りの語句	正しい訳	原因

5 原文　わざとの御学問はさるものにて、琴笛の音にも雲居を響かし、すべて言ひ続けば、ことごとしう、うたてぞなりぬべき人の御さまなりける。（源氏物語・桐壺）

訳　わざと行う御学問はもちろんのこと、琴や笛の音を宮中にまで響かせ、すべて言い続けると、大げさで、いやな感じになってしまいそうな御様子であった。

誤りの語句	正しい訳	原因

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 現代語訳の誤りを直す ③【こたえ】

名前 _____

高校／正しく訳した古語に迷わず、誤りを1か所に絞る　　日付 _____

赤い字がこたえ。「→」は手がかり。正しい訳は同じ意味の言い方なら正解にします（訳は自作）。

1　原文　……ゆゆしき身にはべれば、かくておはしますも、忌ま忌ましうかたじけなくなむ」とのたまふ。（源氏物語・桐壺）

訳　……すばらしい身でございますので、このようにいらっしゃるのも、縁起が悪く恐れ多い」とおっしゃる。

誤りの語句	正しい訳	原因
すばらしい	不吉な	イ

→ 直後の「忌ま忌ましう（縁起が悪い）」が、不吉な身という意味を示す

2　原文　かぐや姫のいふやう、「親ののたまふことを、ひたぶるにいなび申さんことのいとほしさに、得難きものを、かくあさましくもてくること」をねたく思ひ、翁は閨の内しつらひなどす。（竹取物語）

訳　かぐや姫が言うには、「親がおっしゃることを、一途にお断り申し上げるのが気の毒で、手に入れにくい物を、このように驚くほど持ってくること」をねたましく思い、翁は寝室の中の準備などをする。

誤りの語句	正しい訳	原因
ねたましく	いまいましく（腹立たしくも可）	ア

→ 苦労して宝を持ってきた皇子への腹立ち。うらやむ意味の「ねたましい」ではない

3　原文　……唐めいたる装ひはうるはしうこそありけめ、なつかしううらうたげなりしを思し出づるに、花鳥の色にも音にもよそふべき方ぞなき。（源氏物語・桐壺）

訳　……（楊貴妃の）唐風の装いは親しかっただろうが、（更衣の）親しみやすくかわいらしかったご様子を思い出されると、花の色にも鳥の声にもなぞらえるすべがない。

誤りの語句	正しい訳	原因
親しかった	端正で美しかった（整って美しかったも可）	イ

→ 唐風の装いを、更衣の人柄と対比してほめている。「親しい」ではなく整った美しさ

4　原文　……なべてほだし多かる人の、よろづに諂ひ、望み深きを見て、無下に思ひくたすは、僻事なり。（徒然草・第百四十二段）

訳　……一般に係累の多い人が、何事にもへつらい、望みの深いのを見て、むやみに見下すのは、まちがいである。

誤りの語句	正しい訳	原因
なし	—	なし

→ 「なべて」＝一般に、「ほだし」＝妻子などの係累、「僻事」＝まちがい。訳は正しい

5　原文　わざとの御学問はさるものにて、琴笛の音にも雲居を響かし、すべて言ひ続けば、ことごとしう、うたてぞなりぬべき人の御さまなりける。（源氏物語・桐壺）

訳　わざと行う御学問はもちろんのこと、琴や笛の音を宮中にまで響かせ、すべて言い続けると、大げさで、いやな感じになってしまいそうな御様子であった。

誤りの語句	正しい訳	原因
わざと行う	本格的な（正式なも可）	ア

→ 学問を琴や笛の腕前と並べている。「わざと（故意に）」ではなく、本格的な学問